

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度 第1回高松市地域部活動検討委員会
開 催 日 時	令和5年11月10日（金）10時00分～11時40分
開 催 場 所	高松市役所 10階 101会議室
議 題	(1) 委員長の選出について (2) 令和4年度の地域運動部活動推進事業について (3) 令和5年度の地域運動部活動推進事業について (4) アンケート調査の結果について (5) 今後のスケジュールについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	野崎委員、大谷委員、谷委員、臼井委員、植松委員、大西委員、河野委員、西山委員
傍聴者	1人（定員3人）
担当課及び連絡先	保健体育課 087-839-2657

会議の経過及び結果

会議公開の確認、教育局長挨拶及び委員の紹介の後、以下の議題について協議した。

(1) 委員長の選出について

高松市地域部活動検討委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員の互選及び委員長の指名により、委員長を決定した。

委員長 野崎委員

(2) 令和4年度の地域運動部活動推進事業について

事務局から説明（資料 No. 4～No. 5）

(2) についての質疑応答

（委員長）

本市における地域移行の課題の中で、高松市の学校数や部活動数が多いとあったが、学校数も多いという趣旨なのか。

（事務局）

高松市立の中学校は22校あり、部活動の設置数も多い。足並みをそろえて行っていくことは難しい現状もあり、一定期間が必要である。

(3) 令和5年度地域運動部活動推進事業について

事務局から説明（資料 No. 6～No. 13）

(3) についての質疑応答

(委員)

資料 No. 10 の柔道の取組では、平日（月曜日から金曜日）の活動と休日（土曜日、日曜日、祝日）の活動の両方が掲載されている。他の取組ではどうなっているか。

(事務局)

国の事業では休日（土曜日、日曜日、祝日）の取組が対象となっている。平日（月曜日から金曜日）の取組についても、今後検証する必要があると考えている。

(委員長)

柔道部の顧問の平日（月曜日から金曜日）の部活動への関わりはどうなっているか。

(事務局)

これまでも顧問の配置はされていたが、技術指導については外部指導者が行っていた。

(委員)

部活動指導員として活動に従事している人と、休日の地域指導者は別の人か。

(事務局)

別の人である。部活動指導員と休日（土曜日、日曜日、祝日）の地域指導者との連携は常に取れていると思う。

(委員)

この地域は、以前から保護者と地域指導者の信頼が築かれており、常に4名程度の方が指導に来ていたように思う。

(事務局)

休日（土曜日、日曜日、祝日）と平日（月曜日から金曜日）の指導者が違った場合の課題についても、今後、検証していく必要があると考えている。

(委員)

それは一番大事なことだと思う。指導者が変わったとしても、お互いに連携をとりながら指導の一貫性を図ってほしい。

(委員)

この地域移行の目的は何か。部活動の延長として考えていくのか、部活動から離して活動していくのか。モデル事業のダンスは部活動から完全に離れている。野球は合同部活動に指導者を派遣している。柔道は単独校の活動に技術指導のために外部から指導者を派遣している。吹奏楽は完全に民間委託している。それぞれに課題があると思うので、どの形態が望ましいのか難しいと感じた。

(委員長)

部活動以外でもいろいろな取組を行うことが学校に求められており、教員の働く環境が厳しいといわれている。部活動の地域移行については、こういった形が一番いいのかはまだわからないので、いろいろな形で試行することで、課題や可能性を見つけ検討していきたい。

(委員)

教職員の兼職・兼業をはずしていくような地域移行をしなければ、本来の地域移行にはならないと思うが、今年度のモデル事業の指導者の報酬はどうなっているのか。

(事務局)

国の事業の基準で、1時間1,600円となっている。

(委員)

モデル事業中はいいが、地域移行が完了した時には予算はどれくらいつくのか。

(事務局)

そこはかなり厳しいと考えている。受益者負担についても今後の課題の一つと考えている。

(委員)

新しい形を進めていくにしても、安全の担保や指導者の資質等不安は大きい。金銭的なことが発生することが、安全の担保や指導者の資質につながっていくのだと思うが、予算がつかないのであればボランティアでやってくれる人を探さなくてはならなくなってしまう。部活動の数が多すぎるのであれば、教員の勤務をフレックス制にしたり、教員免許を持っている一般の人をサポートとして入れたりすることで、教員が休みがとれるような工夫も必要ではないかと考える。

(委員長)

T E S C の取組は、中学生を対象とした多様性のあるクラブに育っていくのではないと思うが、それが地域に広がっていくことはなかなか難しいと感じる。

(委員)

4つのモデルは指導者の報酬は払っているのか。また、今後3年間はモデル事業が続くのか。

(事務局)

モデル事業はすべて指導者へ報酬を支払っている。予算は国の補助でモデル事業として行っている。

(委員)

複数の指導者がいる場合、全員に報酬を払っているのか。

(事務局)

全員に報酬を払っている。

モデル事業は単年事業であるため、来年度以降については未定である。

(委員長)

吹奏楽の民間事業者への委託の報酬はどうなっているのか。

(事務局)

事業全体を委託しており、国の補助の範囲で行っている。

(委員)

吹奏楽の場合は校舎内を使用するため、鍵の管理を心配しているが、これまでは他の部活動も活動しているため問題は発生していない。基本的には土曜日に実施し、全20回中これまで6回実施しているが、顧問(1名)は全て登校して鍵の管理をしており、働き方改革にはつながっていない。12月は鍵を民間業者に預けてみようと考えている。また、民間業者が施設の破損等、問題を起こした場合の対応も今後のテーマになるのではないと思う。

顧問は1名であり自分で指導できる楽器にも限りがあるため、外部の指導者が複数指導に来てくれることはありがたい。保護者も平日(月曜日から金曜日)と休日(土曜日、日曜日、祝日)で指導者が変わることにについて心配はしているが、12月のアンサンブルに向けてパート練習ができることには肯定的に感じている。しかし、来年7月にある吹奏楽コンクールでは、顧問と外部指導者との連携がうまく取れなかった場合を心配している。今後は運動部も含めて、顧問と外部指導者の連携が大切になってくると思う。

(委員長)

学校と民間業者との連携はどうなっているか。

(委員)

週明け月曜日までに、土曜日の活動内容等をメール等で顧問に連絡があるので、その点は心配していない。

(委員長)

このモデル事業の取組を、ぜひプラスの方向に進むよう、取り組んでいただきたい。

(4) アンケート調査の結果について

事務局から説明（資料 No. 14～No. 15、別紙）

(4) についての質疑応答

(委員)

地域クラブの活動の中で、テスト発表中にも活動しているが、委員会からの指導はないのか。

(事務局)

学校管理下を離れた地域クラブの活動であるので、委員会からの指導は難しい。

(委員長)

様々な地域クラブがあり、それぞれめざすものが違うので、一律にはいかないのではないのか。

(委員)

地域クラブが勝利をめざし過ぎているのではないか心配である。

(委員)

地域クラブが中体連に加盟する際には、「ガイドラインを守る」ことが条件となっている。活動日数（平日4日、休日1日）や活動時間（平日2時間程度、休日3時間程度）を示しているが、テスト期間中の活動については、市町をまたがって生徒が集まっている場合などがあるため、一律に規制するのは難しい面もある。

(委員)

テスト発表中の活動については、学校においてもテスト終了後すぐに協会や連盟の大会があり、活動時間等の条件付きで許可をしている場合もある。競技によっては毎月大きな大会がある場合もある。どこに提案すればよいのかわからないが、大会のあり方については、もう一度社会全体で見直すことも大切ではないかと思う。

(委員)

大会の在り方については、確かに議論する必要があると思う。しかし、ルールを細かく決めすぎると、かえって動きづらくなる場合もあるので考慮する必要があると思う。

市スポーツ協会では、これまで小学生を対象としたイベントはあったが、これからは中学生を対象としたイベントも考えている。

また、高松市スポーツ推進計画が来年4月から8年計画でスタートする。その中でも中学校部活動の地域移行について盛り込んでいる。

(委員長)

なかなか改革・改善が難しいところではある。大きく見直していかなければならない時期ではあるが、課題を整理していく必要があるのではないかと思う。

(委員)

今後の高松市を支えていく中学生をどう育てていくのかが非常に重要であり、学校運営も含めて多角的に考えていく必要があると感じた。教員の負担についても、部活動だけなのか、高松市として改善できるものはないのかという視点も含めて考えていけば、いいものができていくのではないかと感じた。

(委員長)

子どもを中心に考えていくということはどの委員も同じではないかと思う。なかなか難しいとは思いますが、学校が抱えている多くの課題を解決するために日々取り組んでいる現状を含めながら、今後の部活動の体制を考えていきたい。

(委員)

学校部活動は生徒にとって大変意義のあるものと考えている。今年度のモデル事業はいろいろな観点から取り組んでいるが、生徒数の減少等で学校単独での活動が難しい学校や競技が増えており、生徒の選択の幅が狭まっている現状等から、「拠点校部活動」の推進も考えてみる必要があるのではないかと思う。

(委員長)

非常に難しい問題で、どのように取り組んでいけばよいのか糸口も見つけにくいところではあるが、今回の多くのデータも生かしながら、今後の事業に取り組んでいただきたい。

本日は様々な意見をいただき、ありがとうございました。事務局も対応をお願いしたい。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局から説明 (資料 No. 17)

(事務局)

貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。このように御意見を伺うことができる場は大切であると思っている。また、子どもたちのために何ができるのかということが共通の認識であると思っている。当課だけではなかなか進まないこともあるため、今後も他課も含めた皆様のお力をお借りして進めてまいりたい。

(閉会)